

きゅうしょくだより



11月8日は「いい歯の日」です。みなさんは歯に良い生活をしていますか?最近、「昨日、歯が抜けたよ」「見てみて!ほら、新しい歯が生えてきたよ」と、二コニコと報告してくれる1年生が増えてきました。むし歯や歯周病など口の中に病気があると、食べ物をよく噛んで食べられません。栄養も吸収されにくくなるため、健康にも影響がでます。ぜひ、新しく生えた大人の歯を大事にしてほしいと思います。



カルシウムを
多く含む食べ物
をとろう

寒くなってきたためか、牛乳がたくさん残つてることがあります。
牛乳には、骨を丈夫にするカルシウムがたくさんつまっています。成長期の子供たちには1日に200mlの牛乳2本分のカルシウムが必要です。アレルギーで飲めないという人も含め、カルシウムを上手にとる方法を工夫して、摂るようにしましょう。

<4個分>

ツナ	60g
じゃがいも	大きめ2こ
たまねぎ	小1こ
にんじん	3cmくらい
えのき	20本くらい
ごぼう	5cmくらい
炒め油	小さじ1
砂糖	小さじ2弱
しょうゆ	大さじ1/2
しお	小さじ1/2
小麦粉	大さじ4
たまご	小1/2こ
水	大2弱
乾パン粉	大さじ4
生パン粉	大さじ1
揚げ油	

好評でしたので
ご紹介します

作ってみよう!
ツナコロッケ

- ツナの油を切っておく。
- 野菜は洗って粗みじんに切る。
- 厚手の鍋又はフライパンで2のキノコと野菜を炒め、調味料で味付けする
- じゃが芋は厚めのいちょうきりに切り、茹でる。ゆであがったら水気を切り、マッシュする。
- 3の具を加えよく混ぜたら8等分にする。
- 衣をつけて170℃の油で揚げる。



日本の食文化は、ユネスコ無形文化遺産に「和食:日本人の伝統的な食文化」として登録され、世界からも注目されています。この「和食」とは、料理のことだけではなく、「自然の尊重」という精神に基づいて育まれてきた食に関する社会的慣習を意味し、右のような特徴があります。持続可能な社会を実現するためにも大切にしていきたい食文化です。11月24日は、一般社団法人和食文化国民会議が定める「和食の日」です。和食を味わい、その魅力を感じ、これからの日本の食文化について考えてみましょう。

和食の4つの特徴



和食に欠かせない「ご飯」

和食は、お米を炊いた「ご飯」を中心に、「汁」と「おかず(菜)」を組み合わせた「一汁二菜」や「一汁三菜」の献立が基本です。栄養バランスが良く、日本人の長寿を支える健康的な食事です。また、お米は日本人にとって欠かせない作物で、年中行事とも深く結び付いています。



日本人が発見した「うま味」

だしの「うま味」は、和食の味わいに欠かせないものです。明治時代に、日本の科学者・池田菊苗博士が昆布のだしからグルタミン酸を発見し、これを「うま味」と名づけました。イノシン酸やグアニル酸などのうま味成分も日本人によって発見され、甘味・塩味・酸味・苦味と並ぶ5つの基本味の一つとして世界でも認められています。英語でもそのまま「UMAMI」と表現します。

和食のマナーをチェック!

「いただきます」「ごちそうさま」を、心を込めて言っていますか?

食事のあいさつには、自然の恵みや生き物の命、食事が出来上がりがまるで関わった人たちへの感謝の気持ちが込められています。

食器の正しい置き方を知っていますか?

お椀の持ち方、お箸の持ち方、お皿の持ち方など、ご飯は左、汁物は右、おかずは奥に置くのが基本です。ご飯や汁物のお椀は、手に持って食べます。

箸を正しく持てていますか?

うえの箸だけを動かす、うえの箸だけを動かして、たものを持ちます。箸のみで食事をするのは、日本独自の習慣です。

ごはんはどっち?



食器が正しくおけているか、確認しましょう。

11月24日は和食の日です。この機会に和食の配膳や箸の持ち方について基本的なマナーを確認しましょう。食事のマナーは「相手への思いやりの気持ち」を態度で表わすものです。